

平成 28 年度  
横須賀美術館 活動状況中間報告書

～より多くの方に愛される美術館に～

平成 28 年（2016 年）11 月

横須賀美術館

## I 美術を通じた交流を促進する

### ① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

#### 【事業計画】

#### 1 展覧会の実施

「広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」ための事業の要は企画展です。今年度も、社会教育施設としての役割と交流拠点としての役割を認識し、バランスを考慮した企画展を実施します。

#### 【展覧会及び観覧者数】

展覧会名	会期	見込	実績	達成率
嶋田しづ・磯見輝夫展	4/1-4/10	2,000	1,173	58.7%
さくらももこの世界展	4/23-6/19	22,000	24,740	112.5%
自然と美術の標本展	7/2-8/21	23,000	26,876	116.9%
女性を描く クールベ、ルノワールからマティスまで ※	9/3-10/23	24,000	7,468	31.1%
新宮晋の宇宙船展	11/3-12/25	10,000	—	—
第69回児童生徒造形作品展	1/12-1/30	14,000	—	—
中村光哉展	2/11-3/31	9,000	—	—
所蔵品展のみの期間	上記以外	5,000	2,763	55.3%
計		109,000	63,020	57.8%

※女性を描く展は9月末までの実績を記載

#### 2 広報・集客促進事業

展覧会、イベント、ロケーションなど横須賀美術館の魅力をフル活用し、横須賀の交流拠点として集客に取り組んでいきます。そのために、企画展情報だけでなく、美術館の総合的な魅力や外部との連携による地域情報を積極的に発信していきます。

##### (1) 訴求活動による集客促進

- ・パブリシティを期待した新聞、雑誌等への展覧会リリース

⇒展覧会毎に発送 1展覧会につき約350件

(このほか学校等施設へのちらしの送付 約1,500件)

⇒取り扱い件数

「さくらももこの世界展 37件」

ラジオ1件、新聞14件、雑誌7件、その他15件

「自然と美術の標本展 14件」

テレビ1件、新聞1件、雑誌8件、その他4件

「女性を描く展 15件」

テレビ1件、新聞1件、雑誌5件、その他8件

- ・広報よこすか等他部局の広報媒体を活用した情報発信
    - ⇒広報よこすかに毎月掲載（展覧会やワークショップなどの情報）、  
横須賀市ツイッター（フォロワー数約 11,500 人）への情報発信依頼  
yokosuka ほっとナビ（市広報番組：JCOM）、  
What's New in Yokosuka（国際交流課外国人向け広報紙）  
横須賀中央駅前デジタルサイネージ（観光企画課媒体）
  - ・公共交通機関への広告掲出
    - （駅貼 2 週間、窓上 1 か所、デジタルサイネージ 1 週間）
    - ⇒京急線 窓上、駅貼り（企画展毎に掲出）、  
京王線 駅貼り（さくらももこ展、標本展、女性を描く展）  
東急東横線 窓上（女性を描く展）  
東急東横線横浜駅ポスター駅貼り掲出（さくらももこ展）  
東急東横線横浜駅デジタルサイネージ（標本展）  
横浜駅みなみ通路デジタルサイネージ（女性を描く展）
  - ・ホームページ、ツイッター、フェイスブックを活用した情報発信
    - ⇒ホームページでの情報発信（展覧会、イベントなどの）
    - ⇒ツイッターでの情報発信（展覧会情報や美術館周辺情報など）
      - ★ツイート数=約 2600 件 ★フォロワー数=約 5700 人 9 月末現在
      - ツイッターは情報の拡散に長所があるため、展覧会やイベント情報の周知に活用しています。フォロワーは少しずつ増え、9 月末現在約 5,700 人となっています。
      - 今後も展覧会情報に加えて、周辺情報などフォロワーに面白いと思ってもらえる情報を発信していきます。
    - ⇒フェイスブックでの情報発信
      - ★横須賀美術館 FB「いいね」数=923 人、チェックイン=265 件
      - ★谷内六郎館 FB「いいね」数=125 人、チェックイン=13 件
      - （横須賀美術館 H27.9/9～、谷内六郎館 H27.7/31～運用開始）
      - ツイッターとは異なり、長文が投稿できるため、展覧会やイベント情報の周知だけでなく、ユーザー同士の交流の場にもなっています。
- 今年度は、展示作品が撮影可能な「自然と美術の標本展」で SNS を利用した情報発信を促したところ、かなりの投稿がありました。  
今後も SNS 毎の特性を生かした情報発信に努めていきます。
- ・インバウンド推進のための外国語情報発信の拡充
    - ⇒「女性を描く」展より、英語版の展覧会情報を HP に掲載し始めました。  
米海軍横須賀基地への PR は、観光協会が当館の情報を主体としたパンフレットを作成することとなったため、いったん自主制作を見直し、紙媒体以外での広報も含め、より効果的な広報を検討しているところです。  
また、今年度より、外国人観覧者の統計を取り始めました。
    - ★西洋系=432 人    ★東洋系=231 人    ★その他=15 人

(2) イベント開催など展覧会以外の要因で利用者を増やす取り組みの推進

- ・コンサート等、各種イベントの開催  
 ⇒蓄音機で聴くフランス名曲コンサート (9/10 開催)  
 クリスマスコンサート (12/23 開催予定)  
 マジックワークショップ (2月または3月開催予定)
- ・年間パスポート、前売券の販売  
 ⇒販売枚数と利用回数 (9月末現在)

	販売場所	販売枚数	利用回数
パスポート	美術館	291 枚	1,082 回
	芸術劇場	15 枚	
	計	306 枚	
前売り券	美術館	51 枚	171 回
	芸術劇場	193 枚	
	計	230 枚	

(3) 外部連携による集客推進

①他部局との連携

- ・カレーフェスティバルなどイベント参加による情報発信  
 ⇒カレーフェスティバル (5/7-8) や産業まつり (11/12-13) などへの協賛  
 また、観光企画課が行うサイクリング推進事業 (スカチャリ) などへのクーポン協賛などを行っている
- ・米海軍横須賀基地在住者の誘致  
 ⇒国際交流課や、観光企画課が発行するパンフレットをとおして米海軍横須賀基地へのPRを行っている。
- ・ふるさと納税事業への協力によるPR  
 ⇒財政課が推進する「ふるさと納税事業」の中で、当館の観覧券とアクアマールのお食事券をセットにした商品を提供予定

②民間事業者との連携

- ・民間事業者との広報協力、イベント参加による情報発信  
 ⇒「女性を描く」展タイアップ (アクアマール、観音崎京急ホテル、みやまさ)  
 ⇒広報協力 (観音崎京急ホテル、ソレイユの丘、うらり、すかなごっそ ほか)  
 ⇒各種学園祭等のイベント協力によるPR  
 横浜国立大学学園祭 (清涼祭 6/4-6/5、常盤祭 10/29-10/31)、  
 日本大学学園祭 (法桜祭 11/3-5)、  
 立正大学学園祭 (橘花祭 11/5-11/6)  
 慶應義塾大学 (矢上祭 10/8-10/9)  
 ⇒日産スタジアムの横浜F・マリノス戦へのブース出店 (7/23)
- ・福利厚生団体等との割引施設契約の実施

⇒ JAF、JTBベネフィット、リロクラブ、神奈川県厚生福利振興会  
神奈川県市町村職員共済組合 など

③近隣地域との連携

- ・ 町内清掃、防犯パトロールなど地域活動への参加  
⇒ 町内清掃などの地域活動への参加や町内会での美術館PR
- ・ 観覧ツアーなど美術館活動による交流の実施
- ・ 観音崎全体の魅力を向上させるためのイベントの開催  
⇒ 観音崎フェスタへのブース出店 (11/3 予定)
- ・ 地域での消費活動を促進する取り組みの検討  
⇒ 繁忙期、近隣事業者の美術館への出店 (8/27・28、11/3 予定)

(4) 団体集客の推進

- ・ 市内民間事業者と連携した企画 (ツアープランなど) の検討、提案  
⇒ 検討段階
- ・ 旅行会社への団体ツアーの企画提案、誘致  
⇒ 旅行事業者営業訪問 (クラブツーリズム、朝日旅行、はとバス)  
⇒ 募集型企画旅行による観覧者は以前と比べると減少しています。海上自衛隊の護衛艦と組み合わせた人気のツアー商品が、護衛艦の受け入れがなくなったため催行できなくなり、横須賀美術館の観覧と組み合わせるスポットが少なくなったためです。今後は、旅行事業者へ地道な営業活動を継続しながら、新たな団体集客のための方策を検討していきます。
- ・ ウェルカムトークの実施  
⇒ 原則ガイドは学芸員が対応しているが、場合により行っている

(5) 商業撮影の受入と誘致

- ・ ドラマや映画、雑誌等の商業撮影の受入
- ・ 撮影者側のニーズに対応した誘致の実施  
⇒ 今後も当館のPRに繋がる撮影については積極的に受け入れていきたいと考えています。

---

**【達成目標】 年間観覧者数 100,000 人以上**

---

**【目標設定の理由】**

- ・「横須賀市立美術館基本計画」（平成12年6月策定）では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などから年間観覧者数を10万人と推定し、開館後の実績としても初年度を除き10万人前後で推移しています。
- ・そのため当館では、まず観覧者目標を10万人以上とし、展覧会内容のバランスを考えながら展覧会を決定しています。
- ・一方、観覧者の見込み数は、展覧会ごとの開催時期や過去に開催したターゲットの近い展覧会の実績などを勘案し算定しています。

年間観覧者見込みに対する達成状況 (単位：人)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度 (9月末現在)
見込み (A)	102,000	104,000	109,000
実績 (B)	113,007	114,861	63,020
達成率 (B/A×100)	110.8%	110.4%	57.8%

---

**【実施目標】**

- ・様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。
- ・各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。
- ・外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。
- ・旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。
- ・商業撮影の受入と誘致を推進し、美術館のイメージアップを図る。

---

**【目標設定の理由】**

- ・横須賀美術館は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市のシティセールスや交流都市の推進という観点からも重要になります。
- ・市内外に積極的に情報を発信して広い層に魅力をアピールすることで知名度や認知度を向上させていくことが必要と考え、実施目標として設定します。
- ・広報、パブリシティ活動にあたっては、当館の利用者層や展覧会ごとのターゲット層に応じた効果的な広報を実施します。
- ・そのために、様々な広報媒体をその特性を踏まえて効果的に活用し、特に若い世代に対しては積極的にツイッターなどのSNSを活用していきます。

1 パブリシティによる取り扱い件数

(単位：件)

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度 (9月末現在)
新聞	53	63	53	20
雑誌	64	85	55	27
Web	21	34	26	7
フリーペーパー	47	62	57	23
書籍	10	7	4	3
会報誌	5	8	8	4
TV	13	16	13	6
ラジオ	1	6	6	2
その他	1	4	6	10
合計	215	285	228	102

2 美術館公式ツイッターのフォロワー数等の実績 (年度末)

(単位：件)

	H24	H25	H26	H27	H28 (9月末現在)
フォロワー数	701	1,468	2,338	4,054	約 5,700

※ 1週間毎にフォロワー数を記録しているため、毎年度 3/31 現在の数字ではありません。

3 募集型企画旅行による観覧数

	平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度 (9月末現在)	
	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数
企画展	6	169	4	169	4	113	2	47
所蔵品展	63	2,968	61	2,968	0	0	6	348
合計	69	3,137	65	3,137	4	113	8	395

4 商業撮影の受け入れ件数

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度 (9月末現在)
撮影件数 (件)	23	45	33	15
使用料 (円)	1,970,500	2,661,751	1,518,671	691,120

※ 平成 25・26 年度に多くの収入があったのは、新車の発表会による使用 1 回で、110 万円以上 (平成 25 年度 1,142,000 円、平成 26 年度 1,112,928 円) の収入があったためです。

## ② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

### 【事業計画】

#### 美術館ボランティア活動の推進

ボランティアが美術館の活動を支援することで、自らのやりがいを見出し、市民の美術への親しみを増す一助となるとともに、市民の交流の場となることを目指し、ボランティア活動の推進を図ります。あわせて、ボランティア自身の美術への理解を深めるための育成を行います。

#### (1) ギャラリートークボランティア 年 69 日程度

所蔵品展のギャラリートークを行います。(約 50 回)

\* ボランティアを募集し、研修を実施します。(14 回)

\* ボランティアの自主研修を補助します。(5 回)

⇒10 回の研修を行い、26 回のギャラリートークを実施しました。計 34 日、延べ 135 名が活動しています。

#### (2) 小学生美術鑑賞会ボランティア 年 50 日程度

小学生美術鑑賞会で来館する小学 6 年生の受入れ、鑑賞補助をします。(約 42 回)

\* ボランティアを募集し、研修を実施します。(10 回)

⇒5 回の研修を行い、16 校の受入れに参加しました。計 16 日、延べ 131 名が活動しています。

#### (3) みんなのアトリエボランティア 年 12 日程度

障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」の補助をします。

\* ボランティアを募集します。

⇒6 回実施し、延べ 13 名が活動しています。

#### (4) プロジェクトボランティア 年 30 日程度

ボランティアイベントの企画・準備・実施をします。

時期：春、夏、秋、冬の 4 回

\* ボランティアを募集し、原則として毎月 2 回会議を行います。

⇒「ダンボールブロック」(4 月 29 日)、「とぼそう! シャボン玉 2」(8 月 21 日)を開催しました。現在は、10 月 30 日のハロウィンイベントの開催に向けて準備をしています。計 16 日、延べ 150 名が活動しています。

#### (5) プロジェクト当日ボランティア 年 4 日程度

プロジェクトボランティアが企画したイベントの補助をします。

⇒イベント当日だけでなく、準備作業への参加を含め計 7 日、延べ 21 名が活動しています。

(美術館ボランティアの活動日等一覧)

	活動日	募集	研修	任期
(1)	GT:毎週日曜日 研修:日曜日	隔年4～5月 *28年度は 募集年	年間 14 回	1 年間(更新有)
(2)	6月～3月の平日 研修:木曜日	毎年4～5月	年間 10 回	1 年間(更新有)
(3)	毎月第3土曜日	随時	なし	1 年間(更新有)
(4)	原則として毎月第2・4土曜 日、イベント準備日・開催日	随時	なし	1 年間(更新有)
(5)	年4回	イベントごと	なし	イベント当日限り

---

**【達成目標】** 市民ボランティア協働事業への参加者数のべ 2,000 人  
(事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して)

---

**[目標設定の理由]**

- ・参加者数は「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための指標の1つとなるものです。
- ・ギャラリートークボランティアを新規募集するため、研修の回数は 27 年度より多くなります。
- ・小学生美術鑑賞会ボランティアを来年度も募集するので（継続も可能）、参加者の増加を期待しています。
- ・みんなのアトリエボランティアの登録者数自体は増えていますが、アトリエ参加者の定員数に対し、ボランティアは2～3名と決まっているので、活動自体は横ばいとなっています。
- ・プロジェクトボランティアの活動では、平日の活動がやや増えていきます。また近年、イベントへの一般参加者数は、スタッフの人数と会場のキャパシティからみて、安全に楽しむことのできる限界に近付いていると考えられますが、同じ内容で2回実施するなど、工夫もしています。
- ・年間の活動日数、ボランティアの参加状況、イベント参加者数の動向をふまえ、28年度の目標は、のべ2,000人とします。

## 市民ボランティア協働事業へののべ参加者数

(単位：人)

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度 (9 月末現在)
ギャラリートークボランティア	477	323	284	<i>138</i>
小学生美術鑑賞会ボランティア		194	180	<i>131</i>
みんなのアトリエボランティア		28	20	<i>13</i>
ギャラリートーク参加者	326	345	274	<i>206</i>
プロジェクトボランティア	337	229	210	<i>150</i>
プロジェクト当日ボランティア		50	38	<i>21</i>
企画イベント参加者	1,434	1,086	1,142	<i>1,190</i>
計	2,574	2,255	2,148	2,056

## 【実施目標】

- ・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。
- ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。

## [目標設定の理由]

- ・市民感覚を持ったボランティアと協働することにより、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。また、美術館への親しみ、愛着を持ったボランティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。
- ・横須賀美術館のボランティア活動は労働ではなく、美術館が担うべき社会教育の一環です。ボランティアがそれぞれの創意と経験を活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そして、やがてそれが地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。
- ・ボランティア活動がより広がるよう努めていきます。例えば、ギャラリートークボランティアの活動の周知や、小学生美術鑑賞会ボランティアやみんなのアトリエボランティアのように、美術館主体の事業に関わっている活動の充実などを検討していきます。

## Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める

### ③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

---

#### 【事業計画】

---

#### 1 展覧会事業

優れた美術品を展示し、感動と思索を得る場を提供します。

(1) 企画展・・・幅広い関心にこたえるため、特定のテーマによる展示を自主事業として、6回開催を予定しています。今年度は、春にはポピュラリティのある展覧会、夏に博物館と連携した現代美術の展覧会、秋に女性を主題にした海外展を準備しています。また、他に現代美術や横須賀ゆかりの作家による染色の展覧会、毎年開催している「児童生徒造形作品展」を予定しています。

i さくらもこの世界展

4月23日(土)～6月19日(日)

- ・「ちびまる子ちゃん」の作者として知られるさくらももこ(1965-)の、表紙絵や絵本の原画約130点を中心に、立体作品やコレクション、音楽とかかわる仕事やエッセイの原稿などを展示し、その作品世界をご覧ください。  
⇒東映の企画による巡回展で、先に開催した新潟市新津美術館を参考にエントランスホールに写真撮影スポットを設けました。作品展示に加え、テレビアニメのオープニング、エンディング曲を視聴できるコーナーや読書、ぬりえコーナーも好評で、観覧者が展覧会への参加意識を持つことができました。

ii 自然と美術の標本展

7月2日(土)～8月21日(日)

- ・標本(植物、鉱物など)をテーマにした展覧会。博物館と連携し、実際の標本と、現代作家6組(江本創、鉱物アソビ、橋本典久、原田要、plaplaX、山本彌)の作品をあわせて展示します。  
⇒解説パネルに頼って鑑賞するのではなく、美術作品や自然史資料そのものから、鑑賞者自らが学びの端緒を見つけられるよう、解説パネルを極力減らし、さまざまな学びの入口を用意しました。博物館から全面的な協力を得ることができたことも、好評であった理由のひとつと考えています。能動的な学びを、美術館はいかに用意できるかを考えるいい機会となりました。

iii 女性を描く クールベ、ルノワールからマティスまで

9月3日(土)～10月23日(日)

- ・産業化と機械化の発展により、大きく変化したフランスにおける1850年から1939年の絵画の歴史を、「肖像」「画家とモデル」「家庭」「労働」「余暇」「夢の女」というテーマに沿い、女性像を紹介する展覧会です。

iv 新宮晋の宇宙船展

11月3日(木・祝)～12月25日(日)

- ・風や水といった自然エネルギーを受けて、ユニークな動きをみせる屋外彫刻で知られる新宮晋(1937-)が、美術館という屋内空間に挑む個展。海の広場には、世界中を旅した「ウインド・キャラバン」が出現します。

v 第69回児童生徒造形作品展

平成29年1月12日(木)～1月30日(月)

- ・市立の幼、小、中、高、ろう、養護学校74校園より選抜された子どもたちが日ごろの授業でつくり上げた平面作品・立体作品など約3,000点を展示します。

vi 中村光哉展

2月11日(土)～4月16日(日)

- ・横須賀の港の風景を友禅の技法で表現した、染色作家・中村光哉(1922-2002)。本展では、当館の所蔵作品に、ろう染めによる初期作品を加え、色彩豊かな中村光哉の世界の全貌をご紹介します。

(2) 所蔵品展・谷内六郎《週刊新潮表紙絵》展・・・年4回開催

i 第1期所蔵品展 4月9日(土)～7月3日(日)

⇒日本画家・月岡榮貴の生誕100年を記念し、展示室5で所蔵作品による回顧展を開催し、その画業を改めて振り返りました。

ii 第2期所蔵品展 7月9日(土)～9月25日(日)

⇒横須賀出身である画家・川田祐子氏の作品を特集しました。北側ギャラリーと展示室8を使い、近年の代表的なアクリル作品と、新作である油彩の両方を紹介し、彼女の作品の歩みと広がりを示しました。

iii 第3期所蔵品展 10月1日(土)～12月11日(日)

iv 第4期所蔵品展 12月17日(土)～平成29年4月9日(日)

2 教育普及事業

知的好奇心の育成と充足の機会を提供します。

(1) 展覧会関連の外部講師による講演会の開催 5回

展覧会を深く理解できるよう、外部講師による講演会を開催します。

- ・開催：土日 定員：各70名程度(先着制)

⇒当初計画通り、展覧会ごとに順調に講演会を実施しています。

⇒9月末までの展覧会関係講演会3回開催、参加者計149人。

- ・「トークショー 鉱物アソビ・フジイキョウコ『鉱物趣味クロニクル』」参加24人
- ・「トークショー 江本創『幻獣採集探検譚』」参加55人
- ・「川田祐子展 千年の翠 アーティストトーク」参加70人

- (2) ワークショップの開催 6回  
美術への理解を深め、美術館に対して親しみを感じられるよう、多様なテーマによるワークショップを開催します。
- ・ 展覧会に関連したワークショップ 3回
  - ・ 大人向けワークショップ 3回
  - ・ 開催：土日 定員：各 20 名程度（事前申込制）
- ⇒今年度はすべての事業が9月以降に実施予定です。

- (3) 映画上映会の開催 2回  
優れた映像美術に触れ、多様な表現に親しむことのできる映画会（シネマパーティー）を開催します。
- ・ 開催：年2回 定員：25名×2回（事前申込制）
- ⇒まだ計画段階ですが、冬期に実施予定です。

- (4) 学芸員による企画展ギャラリートーク 10回  
展覧会の趣旨や見どころ、主要作品の解説など展覧会を深く理解していただくことを目的として開催します。
- ・ 企画展毎に1、2回程度 開催：土日（当日自由参加）
- ⇒当初計画通り、展覧会ごとに順調にギャラリートークを実施しています。

- (5) 学芸員による展覧会観覧の案内・解説 随時  
学生・グループなど、観覧にあわせ展覧会をより楽しく観覧できるよう要望に応じて、展覧会の案内・解説を行います。
- ⇒団体への案内解説を要望に応じて行っています。
- ⇒例年通り、市民大学講座と連携した団体観覧の案内を行っています。今年度は、「女性を描く」展の事前講座が行われ、会期中には、学芸員による解説付きの「美術館めぐり」が予定されています。

### 3 美術図書室運営事業

美術図書等約2万8千冊を揃えた図書室を運営し、利用者サービスをはじめ、美術への興味や理解が深まる場を提供します。

- (1) 所蔵図書の充実
- ・ 一般的な美術書に加え、企画展に関連する書籍や子供向けの美術絵本、貴重な美術雑誌（古書）などを購入し、魅力のある蔵書の構築を図ります。
  - ・ 古書の補修をし、保存や利用に適した状態にします。
- ⇒当初計画通り順調に実施しています（9月末現在受入れ数：図書221冊、カタログ236冊、定期刊行物152冊）。毎日の配架整理時と蔵書点検時に資料状態を確認し、手入れをしています。

(2) 美術に関する情報提供

- ・受入れた資料をデータベースに登録し、来館者が利用する蔵書検索端末に反映させると共に、利用者の閲覧に供します。
- ・展覧会の開催に併せた関連図書の紹介を行います。

⇒当初計画通り、受入れた資料は速やかにデータベースに登録し、公開しています。

「女性を描く」展では、閲覧室にフランス絵本コーナーを設置し、展示と連携した資料紹介の取り組みを行っています。

---

【達成目標】企画展の満足度 80%以上\*

---

[目標設定の理由]

- ・展覧会を企画・実施することは、美術館にとって基本的な活動のひとつであり、中でも、企画展は、波及効果が高く、最も力を注ぐべき事業といえます。こうした認識から、企画展に対する来館者の満足度を、美術館の社会教育機能の高さを示す目安としました。
- ・満足度は来館者へのアンケートによって算出しており、同じ方法の調査を継続的に行っています。またその満足度の内訳は「作品」「観覧料」「配置・見やすさ」「解説・順路」「心的充足」を計っていて、その総合数値を出しています。
- ・満足度の内訳を見ていくと、「観覧料」「解説・順路」の内の順路については、満足度を上げていくことには限界があり、「作品」「配置・見やすさ」そして解説について改善の余地があります。
- ・ここ数年の数値の変化の経緯を総合的に判断し、目標を 80%以上としました。

※ なお、年度ごとの「企画展満足度」を算出する際には、それぞれの企画展の観覧者数の比率を反映させています。企画展Aの観覧者数をA（人）、企画展Aの満足度をa（%）とするとき、年度ごとの満足度（%）は

$$(A a + B b + C c + D d + E e + F f) / (A + B + C + D + E + F)$$

で表します。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
企画展満足度	77.2%	84.6%	87.0%

平成 28 年度企画展毎の満足度	
さくらももこ展	92.2%
自然と美術の標本展	86.5%

作品評価や配置の数値が高く、解説・順路についての評価がやや低いという傾向がみられます。

---

## 【実施目標】

- ・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。
- ・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。
- ・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。
- ・美術への興味や関心が深まる美術関連の資料（図書、カタログ等）を、図書室で収集・整理・保管・公開する。
- ・資料が探しやすく、快適に利用できる図書室環境を維持する。
- ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。

---

## 〔目標設定の理由〕

社会教育機関としての美術館は、常に知的好奇心を満足させる事業を行い、また、そのための環境を整えていかななくてはなりません。美術として扱うべき領域はとても広く、利用者の幅広い興味に応えるためには、所蔵品展以外にもさまざまなテーマを設けた企画展を開催する必要があります。作品の借用が許される期間に限度があることなどを考慮し、1カ月半から2カ月程度を目安とした年間6回の企画展を計画・開催しています。また、コレクションの魅力を紹介するために、所蔵品展および谷内六郎展をそれぞれ年間4回開催しています。

さらに、横須賀美術館では、美術への親しみ、理解を深めるために、講演会やワークショップなど、年間を通じてさまざまな教育普及事業を展開しています。ここでは、広く一般向けの教育普及事業について、評価の対象とします。

これらの事業を企画・実施するための基礎が、調査研究です。範囲は、所蔵作品に関することを中心に、広く美術に関すること、教育普及に関することを含みます。

## ④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。

### 【事業計画】

#### 学校との連携

- 1 中学生のための美術鑑賞教室の開催 14回  
中学生向けに鑑賞ガイドを用意し、学校外での美術を学ぶ場となる美術鑑賞教室を開催します。  
⇒中学生の夏休みの宿題をサポートする目的で、鑑賞ガイドの配布と館内ツアーを含む鑑賞教室を行いました。  
⇒8月11日(木・祝)～21日(日)全14回の鑑賞教室には、保護者を含め196人が参加しました。参加者数は昨年並みで、保護者の割合が高い傾向が続いています。また、鑑賞ガイドを2,500部作成し、7月21日(木)から来館した中学生に受付で配布しました(8月24日配布終了)。
  
- 2 「美術鑑賞会」の受け入れ(市内全小学校6年生) 46回  
市立の全小学校6年生を対象に、ワークシートを用いて美術館における美術鑑賞教育となる鑑賞会を開催します。  
⇒年度当初の計画に準じ、順調に受け入れを進めています。
  
- 3 出前授業の実施 随時  
学校教育と連携し、美術館職員が学校に出向き、授業の中で美術館アートカード等を用いた美術教育を実践する出前授業を実施します。  
⇒出前授業にこだわらず、独自のアウトリーチの試みに取り組んでいます。  
⇒「自然と美術の標本展」関連事業として、走水小学校の協力により、出品作家のplaplaxが出前ワークショップを行い、できあがった児童の作品を展覧会で展示しました。  
⇒田浦小学校で行われた、アートカードを使った図工の授業に学芸員が参加しました。
  
- 4 職業体験の受け入れ 随時  
子どもたちが美術館での仕事を体験する職業体験の受け入れを行います。  
⇒年度当初の計画に準じ、順調に受け入れを進めています。  
⇒全14校の受け入れ予定のうち、5校10人の受け入れが終わっています。
  
- 5 学芸員実習の受け入れ 1回(6日間程度)  
⇒8月18日(木)～23日(火)の6日間、6名の大学生を受け入れました。
  
- 6 教員のための研修 随時  
⇒今年度は、美術館が主催する研修の予定はありませんが、要請に応じて、他課および他館の事業に参加しています。  
⇒8月2日、横須賀市教育課程研究会図画工作部会において、パネルディスカッションにパネラーとして参加しました。

⇒8月15日、岡山県立美術館 学校と美術の連携員研修会に講師として参加しました。  
⇒教員の社会体験研修の受け入れを行いました（10年経験者、5年経験者の受け入れ4名）。

子どもたちへの美術館教育

1 ワークショップの開催 10回

子どもたちが美術に親しめるようなワークショップ事業を開催します。

- ・ 展覧会関連ワークショップ、子ども向けワークショップ

開催：5月、10月 定員：40～60名程度（事前申込制）

⇒9月末までのワークショップ開催は4回、参加者計104人。

- ・ さくらももこの世界展関連事業「豆こけし絵付ワークショップ」14組28人
- ・ 標本展関連事業「プラモデルのパーツであたらしい昆虫をつくろう」22人
- ・ // 「手のなかのかたち」35人
- ・ 川田祐子展関連事業「指で描く&目隠し鑑賞会」参加19人

2 映画上映会の開催 2回

気軽に映画を楽しめるよう屋外での映画会（野外シネマパーティー）を開催します。

開催：8月 定員：なし（当日自由参加）

⇒8月最後の土日に開催される野外上映として、8年目を迎える横須賀美術館の定番イベントです。今年は、アメリカのアニメーション「くもりときどきミートボール」を上映しました。

⇒8月27日（土）、28日（日） 2日間の参加者数計405人（28日は雨天のためワークショップ室で開催）。

3 親子ギャラリーツアーの開催 4～5回

親子で美術鑑賞の楽しみ方を知ってもらうための学芸員によるギャラリーツアーを開催します。

⇒開催回数を重ね、美術作品を媒介として親子間で会話を楽しむ方向に重点が置かれるようになっていきます。

⇒難聴の児童の参加がありましたが、印刷物を用意するなどして、問題なく参加してもらうことができました。

⇒9月末までの親子ギャラリーツアーの開催は2回、参加者計10組16人。

4 保育園との連携 20回

市立保育園 10園と連携し、おもに年中・年長の児童に向けた鑑賞プログラムを実施します。園ごとに、学芸員による「出前プログラム」と来館時の「美術館ツアー」の2つを行います。

⇒年度当初の計画に準じ、順調に受け入れを進めています。

**[目標設定の理由]**

子どもたちが美術館に親しみを持ち、利用しやすくするためのさまざまな取り組みをしていますが、その成否は、実際の観覧者数に反映されるはずです。

従来、横須賀美術館では、一定の質を保った美術展を年間通してバランスよく行うこととしています。平成 27 年度については、夏季に、世代を越えた支持層をもつ TV シリーズ「ウルトラマン」をテーマとして、「ウルトラマン創世紀」展を開催しました。また、秋には、絵本作家として知られる長新太氏の回顧展を行いました。

今年度も、世代を問わず親しみのもてるテーマを取り上げるとともに、美術館でなければできない子ども向けの事業を行うよう心がけることとします。

一方で、市全体の 14 歳以下の人口が減少していることや、子ども向け事業の対象からははずれる中学生の観覧者数が横ばいであることなど、中学生以下の観覧者数が容易には増加しにくい条件も見られることを考慮し、平成 28 年度の目標は、これまで通り 22,000 人としました。

(中学生以下の観覧者数)

(単位：人)

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度 (9 月末現在)
幼児	5,358	9,216	7,202	3,771
小学生	11,819	12,851	12,639	6,312
中学生	4,119	4,003	4,332	3,193
計	21,296	26,070	24,173	13,276

⇒学校連携の面では、引き続き、質の高い鑑賞支援ができるよう努めていきます。

⇒美術館の主催事業の面では、今後も、ワークショップをはじめ、予定した事業を充実した内容で実施できるよう、努力していきます。

⇒子どもを対象とした事業全体で、保護者などの大人の割合が高くなる傾向があり、子どもに特化した事業の独自性を維持する工夫が必要になっています。

---

**【実施目標】**

- ・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。
  - ・学校および関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。
  - ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。
  - ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。
  - ・小学生美術鑑賞会を充実させるため学校との連携を強化する。鑑賞会と連動した教材「アートカード」のいっそうの活用促進を教員と協力しながら行う。
-

## [目標設定の理由]

美術教育は表現と鑑賞との両輪によってなりたつものですが、多くの学校教育現場では鑑賞の機会に乏しく、表現としての造形教育に偏りがちでした。

近年の学習指導要領では、小・中学校における鑑賞教育がより重視されるようになってきています。平成23年度から実施された小学校の新学習指導要領では、鑑賞教育のために地域の美術館を利用することに加え、学校と美術館との連携を図ることが明示されています。美術館には、先生との情報共有を密にし、学校からのニーズに応えることが求められています。

学校教育ではできない、美術館だからこそできることは何かをじゅうぶん意識しながら、鑑賞教室やワークショップ、作家との連携等充実したプログラムを企画、提供することによって、子どもたちが美術に親しみをもつ機会の拡充につとめていきたいと考えています。

## ⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

### 【事業計画】

新たな美術品の収集（寄贈、寄託の受け入れ）を行うとともに、所蔵する美術品約 5,000 点の管理を行います。

#### 1 美術品の収集（購入予算は無、寄贈、寄託の受け入れ）

美術品の収集方針・・・近現代の絵画、版画、彫刻とし、次の基準によります。

- (1) 横須賀・三浦半島にゆかりのある作家の作品
- (2) 横須賀・三浦半島を題材とした作品
- (3) 「海」を描いた作品
- (4) 日本の近現代を概観できる作品
- (5) その他、上記に関連ある国内外の優れた作品

寄贈、寄託の申込のあった作品について、当館の収集方針に合致するかを検討し、作品の来歴や状態を調査します。

収集方針に沿った作品について受入の可否を美術品評価委員会で審議いただき、委員会終了後、収集の承認を受けた作品について受入手続きを行います。

⇒平成 28 年度の収集作品は美術品評価委員会を経て決定するため、現時点で今年度の収蔵作品は未定です。

#### 2 所蔵作品の管理（修復・額装及び作品の貸出）

作品の修復・額装について、作品の状態、展示計画などに即して適切に行います。

作品の貸出について、展覧会内容、会期、巡回先など内容を吟味した上で、適切に手続きを行います。

⇒所蔵品展での展示や他館貸出予定がある作品を優先し、9 月末までに、3 件 14 点の修復、額装を行いました。

（朝井閑右衛門作品 11 点の額改修、梅原龍三郎作品 2 点の修復・額装、川端龍子作品 1 点の新規額装）

⇒9 月末までに、7 件 72 点の貸出を行いました。

（「昭和の洋画を切り拓いた若き情熱 一九三〇年協会から独立へ」1 点、「画家たちの詩、詩人たちの絵」3 点、「藤田嗣治 東と西を結ぶ絵画」1 点、「萬鉄五郎・岸田劉生とその仲間たち」3 点、「国吉康雄展」1 点、「朝井閑右衛門展」61 点、「動き出す！絵画」2 点）

また、企画展「自然と美術の標本展」に小茂田青樹《虫魚画卷》を展示するなど所蔵作品の活用に努めています。

#### 3 環境調査の実施 年 2 回

作品を保管する収蔵庫、保管庫およびその周辺（搬入口、荷受荷解室）について、環境調査を実施します。

⇒5 月 17 日～6 月 16 日、7 月 19 日～8 月 19 日の日程で実施し、概ね良好な結果を得ました。

#### 4 美術品評価委員会の開催 年1回

美術品の収集について、専門的見地から審議いただく美術品評価委員会を開催します。

⇒平成28年度の委員会を平成29年1月～3月に実施の予定です。

---

#### 【達成目標】環境調査の実施（年2回）

#### 美術品評価委員会の開催（年1回）

---

##### 〔目標設定の理由〕

美術館としての基本的な活動として、作品収集を行っていますが、購入費（基金）が充当されていないため、寄贈に頼っているのが実状です。したがって、数値目標として新規収蔵作品の数量等を設定することは不適切であると考えます。そうしたなかで、収集のための情報収集や調査を継続的に行うことの結果として、受け入れの可否を諮問するための美術品評価委員会を、年に1回開催することを数値目標とします。

また、収蔵庫の環境が作品の保管に適しているかどうか調べる環境調査を、年2回実施することを、あわせて目標とします。

---

#### 【実施目標】

- ・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。
- ・適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。
- ・計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。
- ・所蔵作品がひろく価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。

---

##### 〔目標設定の理由〕

- ・すぐれた美術作品をひろく収集し、次世代に伝えてゆくことは、美術館の果たすべき基本的な役割です。そのために、保管のための適切な環境整備と、作品そのものの修復および保護を行っています。他の機関での展示等の所蔵品の活用は、作品への影響をじゅうぶんに考慮したうえ、可能な範囲で行っています。

### Ⅲ 訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

#### ⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。

---

##### 【事業計画】

---

##### 1 運營業務

受託事業者との連携を図り、利用者にとって心地よいサービスを提供します。

- ・受託事業者との定期的なミーティングの実施による情報共有  
(運營業務者連絡会議一月1回、朝礼ー毎日)

⇒計画通りに実施し、連絡不足による問題の解消に努めています。

- ・受託事業者からの業務日報や来館者アンケートに基づく課題の把握

⇒受付スタッフからの日報を受けて、課題や苦情の把握に努めています。

- ・館内巡回による清掃状況及びスタッフ対応等の確認 (毎日)

⇒担当係長による巡回をほぼ毎日実施しています。

- ・レストランと連携した企画展ごとのコラボレーションメニュー提供の継続

⇒継続実施しています。

- ・付帯施設 (ショップ・レストラン) に対するアンケート結果等を提供し、協力して改善を図る

⇒月1回の運營業務者会議にてアンケート結果を提供しています。

- ・モニタリングによるホスピタリティ調査の実施

##### 2 維持管理業務

施設、設備の維持管理に努め、利用者にとって心地よい空間を提供します。

- ・中長期修繕計画作成の継続

⇒随時、微修正を行っています。

- ・案内サイン台帳の作成

- ・屋外への簡易休憩場所設営の継続実施

⇒8月・9月の土日祝日を中心に、ワークショップ室前にテーブルとチェアを用意しています。好評につき継続実施します。

また、問合せがあれば、三軒家園地の東屋もご案内しています。

##### 【達成目標】

- ・館内アメニティ満足度 90%以上
  - ・スタッフ対応の満足度 80%以上
- 

##### [目標設定の理由]

- ・これまで目標値が一定ではなく変動していましたが、一つの適正基準を設け、それに対する達成度による評価をしていただくよう、目標値を固定しました。
- ・達成目標の適正基準として、それぞれ90%以上、80%以上を設定しました。  
この目標値は、過去の実績を参考に、目標を高く持ちつつも達成が決して不可能ではないと思われる数値であり、言い換えれば、目標値の達成イコールかなりの高水準を維持できていると思われる数値としました。

- ・満足度は、来館者アンケートの質問8項目（アクセス、館内印象、静かさ、スタッフ、休憩所、トイレ・授乳室、清潔感、総合）の内、外部要因や展覧会等の企画内容による影響を受けにくい2項目（スタッフ、総合）を指標として使用しています。
  - ・館内アメニティ満足度については、来館者アンケートの質問事項「全体的にみて、館内では気持ちよく過ごせた。」に対する満足度（総合満足度）、スタッフ対応の満足度については、来館者アンケートの質問事項「スタッフの対応・案内は適切だった。」に対する満足度を指標としています。
- なお、原因を究明し改善に役立てるため、24年度から5段階評価に加え、「特によかったところ、よくなかったところ」を具体的に記述していただく欄を設けています。

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度 (9 月末現在)
館内アメニティ満足度	89.9%	92.5%	<b>91.9%</b>
スタッフ対応の満足度	81.9%	85.2%	<b>85.3%</b>

#### 【実施目標】

- ・ 建築のイメージを損なわないよう、じゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。
- ・ 受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。
- ・ 運営事業者と協力して、付帯施設（レストランおよびミュージアムショップ）を来館者ニーズに応じて運営する。

#### [目標設定の理由]

- ・ 横須賀美術館が来館者に好ましい印象を持たれている大きな要因の一つは、周囲の豊かな自然と、その風景と調和したユニークな建物です。しかし、海のそばに立地しているため、強い風雨にさらされることも多く、また塩害などによる老朽化が進んでいることも事実です。建築の魅力をいつまでも来館者に伝えていくためには、適切なメンテナンス、清掃を継続していくことが重要です。
- ・ また、スタッフの対応によって、美術館に対する印象は大きく左右されますので、受付・展示監視スタッフ等の受託事業者との緊密な連携を図り、来館者の立場に立ったより良い接客を目指します。
- ・ 美術館を訪れた際の買い物や食事も、来館者の大きな楽しみです。レストランおよびミュージアムショップと連携し、来館者のニーズに即応したサービスの提供がなされるよう、知恵を出し合い、工夫を重ねていきます。

## ⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。

### 【事業計画】

- 1 福祉活動講演会の開催 1回  
さわれる彫刻や絵画など、誰もが美術に親しむことができるさまざまな研究や事例を紹介していく講演会を開催します。大学等、関連機関への広報を行います。  
⇒「指先で読む本を広めたい！－触察本の出版現場から」  
日時：7月31日（日）14時～16時（参加者 27名）  
講師：シルヴィオ・ザモラーニ（シルヴィオ・ザモラーニ出版）  
内容：講師であるシルヴィオ・ザモラーニ氏は、視覚障害者のための触察本に加え、パンフレットやフライヤー、案内板などの出版・制作を手がけています。いずれも、ユーザーや研究者との連携を経て制作されたもので、媒体ごとに、テーマや配慮する点、伝えるべき情報などを話していただいた。出版者という立場からのお話は実践的で、会場からも具体的な質問があがった。突き詰めていくと、視覚障害者に限らず、どんな障害にも年齢にも対応し得る、言葉の壁がある人にも分かりやすい、本当のユニバーサルなものに行きつくことができるという強い信念に対し、参加者も同意していました。
  
- 2 福祉関連イベントの開催 2回  
障害の有無に関係なく、誰もが美術や表現活動に親しむことができる福祉関連イベント（ワークショップやパフォーマンス）を開催します。  
⇒12月11日に、視覚障害者や聴覚障害者などが参加することができる「におい」をテーマにしたワークショップを開催する予定です（井上尚子「くんくんウォーク@横須賀美術館」）  
⇒2月に、ろう者と聴者が、協力して公演活動を行っている人形劇団デフパペットシアターによる公演＋ワークショップ「一寸法師とお楽しみ交流会」を開催することを計画しています。
  
- 3 障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」の開催 12回  
障害のある子どもたちを対象に、身近にある材料で創作を体験するワークショップを開催します。年度末に、ワークショップ室において一年間の成果を展示します（共同制作した大型作品の展示）。  
⇒4月より毎月1回開催し、回によっては定員を大きく上回る申込者があります。講師と相談し、定員を増やした回もありました。リピーターが多くいますが、一方で、新規参加者もあり、参加者が固定化され過ぎず良い状況だと思います。一度参加した方は内容に満足し、リピーターとなることが多いです。何度も参加することで、講師とより深い関係を築くことができていると見学やボランティアの希望も多く、有意義な活動であると言えます。利用者は延べ111名となっています。

#### 4 託児サービスの実施

16回

1歳～未就学児を対象に、展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向け、託児サービスを実施します。

⇒5月より13回の実施を周知し、うち7回に申込みがありました（うち1回は当日キャンセル）。利用者は延べ9名となっています。

#### 5 未就学児ワークショップの実施

1回

就学前の子どもたちが美術に親しめるようなワークショップを開催します。

⇒3月に開催を予定しています。

※「5 未就学児ワークショップ」は27年度より、対象年齢や性質を考慮し、評価項目「④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する」から「⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える」へ移動しました。

---

**【達成目標】 福祉関連事業への参加者数のべ400人以上**

---

#### 〔目標設定の理由〕

- ・福祉関連の事業は、対象を限定すればするほど参加者数が減る傾向にあります。しかし一方で、対象を限定した事業展開こそ必要な分野でもあります。
- ・上記のような事情により、福祉関連事業は、その年の事業の性格次第で参加者数の増減が大きくなりがちです。そこで、過去の事業内容と参加者数、平成28年度の事業内容を考慮し、400人以上を平成28年度の目標値としました。

(福祉関連事業への参加者数)

(単位：人)

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度 (実績)
福祉関連講演会	29	31	28	27
福祉関連ワークショップ	26	50	45	未実施※2
福祉関連パフォーマンス	125	151		
みんなのアトリエ (障害児者向けワークショップ)	214	191	189	111
託児	27	34	25	9
未就学児ワークショップ※1	98	39	31	未実施
計	519	496	318	147

※1 未就学児ワークショップは実施年度により、子どものみの参加の場合と、親子参加の場合がある。25年度は親子の合計人数。

※2 27年度までは、福祉ワークショップ1回、福祉パフォーマンス1回と分けていたが、28年度より、「福祉ワークショップもしくはパフォーマンスを2回開催する」こととし、目標数を合算した。

#### 【実施目標】

- ・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う。
- ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。
- ・託児サービスを積極的に周知していく。

#### 【目標設定の理由】

- ・各種事業を通じて、美術館が健常者のみの施設ではないこと、障害の有無に関わらず美術を楽しむこと、また各年齢や状況に応じた楽しみ方があることを伝えていきたいと考えています。
- ・設備や什器を新規に導入するよりも、対話鑑賞のような人的対応を充実させることのほうが、福祉の充実につながると考えています。
- ・障害者等のニーズを、職員が実践を通して知ることによって、次年度以降の取り組みや長期計画に活かしていきたいと考えています。
- ・子どもをもつ方が安心して美術館事業に参加できるようにするためには、託児サービスについても広く知っていただくことが必要と考えています。

⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。

【事業計画】

- ・エネルギーの消費管理を行い、省エネ対策を推進します。  
⇒空調機内部の分解洗浄を行い、空調の機能を改善しました。
- ・サービスを低下させず、経営的な視点で委託業務の見直しを行います。  
⇒各事業の目的や実施効果を再確認し、事業を進めています。2社以上からの見積合せを実施することで、経費の削減に取り組んでいます。
- ・四半期毎に消費エネルギーの数値等を職員全員に周知し、コスト意識の啓発を図ります。  
⇒電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を月ごとに管理し、四半期ごとに職員ミーティングの際に報告し、年間を通したコスト意識を持った事業活動の啓発を図りました。  
⇒年度初めの職員ミーティングで年間の目標を共有しました。

【達成目標】 電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近3年間の平均値以下とする。

[目標設定の理由]

- ・電気料、水道使用料、下水道使用料は、美術館の総事業費の約17.7%を占めることから、達成目標を定め管理していく必要があります。
- ・職員が努力した効果を目に見えて感じることができる目標として、電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を、直近3年間（H25～H27）の平均値以下を当面の目標とします。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度 (目標)
総電気使用量(kwh)	2,571,895	2,582,595	2,540,390	2,564,000
電気使用量(昼間) (kwh)	1,754,173	1,800,387	1,718,576	1,757,000
電気使用量(夜間) (kwh)	817,722	782,208	821,814	807,000
水道使用量(m <sup>3</sup> )	4,055	4,077	4,396	4,170
事務用紙使用枚数 (枚)	209,241	216,104	211,250	212,000

---

**【実施目標】** 職員全てが費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。

---

**〔目標設定の理由〕**

- ・サービスを低下させず経費を削減しスリムな運営体制を目指すためには、職員全員が費用対効果を常に意識した行動が必須であると考え、実施目標としました。